

学校適正規模・適正配置の進捗について

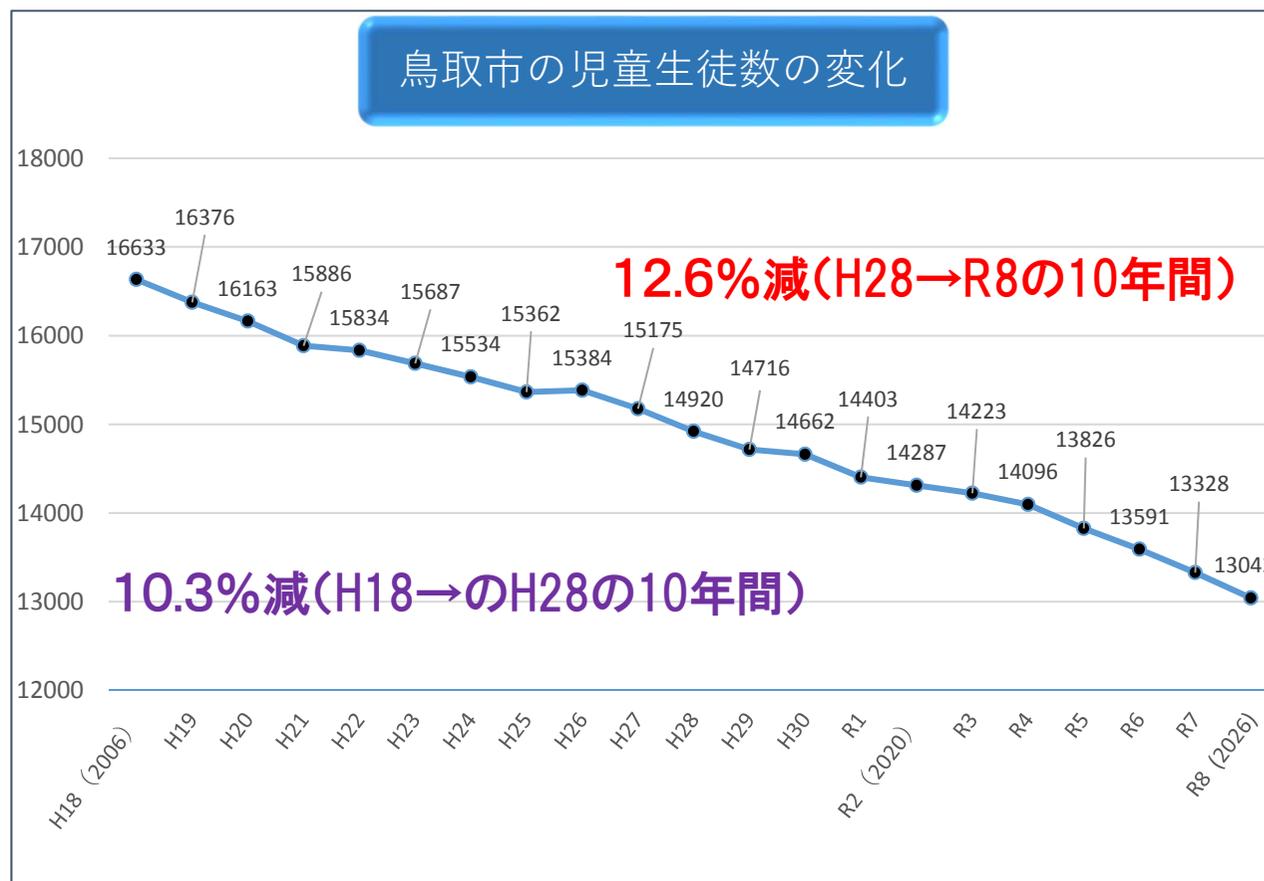


教育総務課校区審議室

令和3年3月 鳥取市立学校適正規模・適正配置基本方針策定



この基本方針は子どもの数が減っても教育の水準がなるべく公平に維持されることを目指して、校区審議会の答申を受けて策定したものです。



令和9年までは実数が分かっています



鳥取市立学校適正規模・適正配置基本方針の考え方



本案の基本的な考え方

- (1) 未来を担う子どもたちにとって平等で適切な教育環境の実現を最優先とし、本市としての適正規模の基準を設定しています。
- (2) おおむね20年後の姿を想定し**全ての校区で検討組織の立ち上げ**を促します。
- (3) 今後の学校のあり方については地域での責任ある議論を重視し、最終的に教育委員会が決定します。

本市としての適正規模の基準

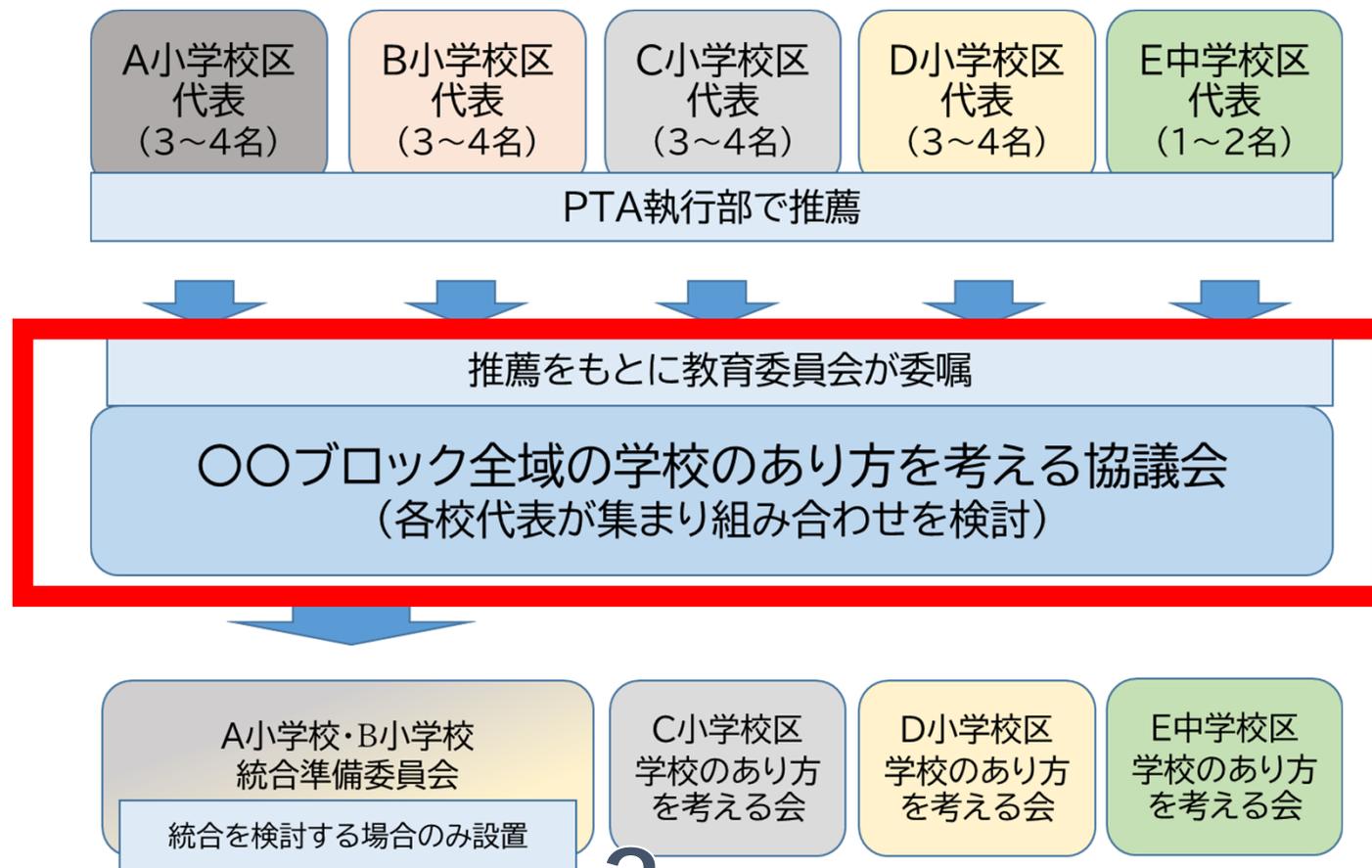
	小学校	中学校	義務教育学校
1校あたりの学級数	12～18学級	9～18学級	9～27学級

- ・小学校…1学年2～3クラス
- ・中学校…1学年3～6クラス
- ・義務教育学校…1学年1～3クラス

検討組織（学校のあり方を考える会）の立ち上げ（1）

全ての校区で検討組織を立ち上げるとは・・・

- 1 中長期的に見ると、全ての校区で児童生徒数が減少
- 2 ブロック別の協議会開催に向けて代表者を選出



検討組織（学校のあり方を考える会）の立ち上げ（2）

【令和3年説明会開催結果について】

1月23日（土） （15時～）	ひかり保育園保護者会
2月12日（金） （19時～）	千代水地区説明会
3月9日（火） （19時～）	修立小校区説明会
3月23日（火） （19時～）	西郷小校区説明会
6月20日（日） （第1部17時～） （第2部18時～）	青谷地域保護者説明会 （すくすく保育園・青谷小・中学校）
6月21日（月）	北中学校運営協議会
6月25日（金） （19時～）	西中校区説明会 （醇風・富桑・明德小学校）
7月15日（木） （19時～）	稲葉山小校区説明会
10月7日（木） （19時半～）	国府中校区説明会 （宮ノ下・国府東小学校）

10月13日（水） （19時～）	東郷小校区説明会
10月14日（木）	遷喬小学校運営協議会
10月28日（木）	美保小学校運営協議会
11月26日（金）	久松小校区説明会
11月28日（日）	千代南中校区説明会
12月3日（金）	中ノ郷中学校区説明会
12月9日（木）	国府東小学校区説明会
12月16日（木）	湖山小学校区説明会

検討組織（学校のあり方を考える会）の立ち上げ（3）

鳥取市教育委員会では、鳥取市PTA連合会のご了承をいただき、子どもたちに一番近いPTAの皆さんに組織の立ち上げまでを主導していただくこととしました。

PTA（PTA会長・副会長）の役割

- STEP 1 教育委員会で行う「説明会」の申し込み・とりまとめ（P2）
- STEP 2 検討組織（学校のあり方を考える会）立ち上げについて提案（P3）
- STEP 3 検討組織（学校のあり方を考える会）メンバーについて協議（P4）
保護者代表として検討組織に参加



適正配置に向けた具体的取り組みについて（1）

今後の具体的な動き

1、PTA会長・校長会、自治連合会、公民館長等へ説明（終了）



2、PTAが教育委員会へ説明会の依頼



3、**校区別**の検討組織の立ち上げ検討



4、**ブロック別**検討組織立ち上げ



5、第1回ブロック別協議会開催
（教育委員会）

- ・ 具体的な統廃合計画ではなく現状把握から
- ・ **前倒して開催も可**

令和
3
・
4
年

令和
4
年
以降

○適正規模・適正配置基本方針についてさらなる周知

- ・ 20年後を目安とした適正化、適正配置
- ・ 緊急性が高い校区についてのスケジュール管理

○小規模以外の課題との関連

- ・ 小規模化は深刻ではないが、施設整備面で更新時期を迎えている学校
- ・ 一時的に教室数不足が予想される学校

○統合を終えた学校についての教育の充実

- ・ 4つの義務教育学校と気高地域に開校する新設校

○関係機関・関係部局とのさらなる連携

気高地域学校統合準備委員会 議論の進捗状況について

基本方針決定（鳥取市教育委員会）

令和2年12月

統合準備委員会（前期）立ち上げ

令和3年3月 第1回

協議

現在 第8回終了

統合準備委員会より教育委員会へ**要望書**提出

令和3年度中

教育委員会で学校の**位置や学校種を決定**

令和4年以降

統合準備委員会（後期）立ち上げ

統合準備委員会（後期）

- ・ 先進地視察
- ・ 学校目標検討
- ・ めざす子ども像協議
- ・ 教育課程検討

設計
（新校舎建築の場合）

造成

校舎建設

委員の意見

反対

小中一貫教育の必要性については理解できた。しかし気高地域においては現在の児童・生徒数から考えるとすぐに義務教育学校を作るような差し迫った状況ではないのではないか。

反対

小学校4校の統合だけでもすごいエネルギーを使う。まずは、落ち着いて4つの小学校統合でよいのではないか。

賛成

講師の話を見ると、小中一貫校の魅力も捨てがたい。いずれ生徒数が減少し小中一貫校にするのであれば、よいものは早くやるべきだ。

新設校の位置について

既存の校舎等に増築

- 長寿命化改修により最短で開校可能。工期、コスト面でも合理的
- 増築棟を特色ある施設に設計可能
- ▲工事中はプレハブ校舎建築により、校庭の使用が制限される

気高中周辺を一体的に整備

- 将来的な選択肢の幅
- 小中一貫教育の充実
- ▲工事期間
- ▲遠距離の徒歩通学児童が多くなる可能性

新たな場所に建築

- 将来的な選択肢の幅
- ▲用地買収の目途
- ▲公共施設を増やさない
- ▲保育園、小学校、中学校が別々であり保護者への負担増